

2022年(令和4年)

7月17日

日曜日

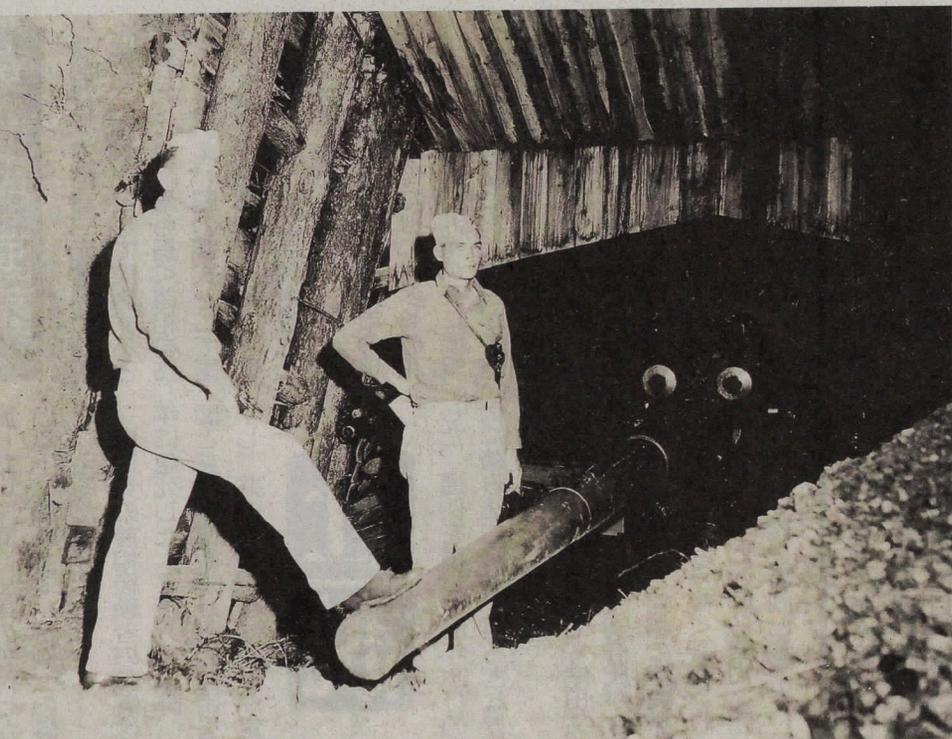


1

3版

令和4年(2022年)7月17日 日曜日

富岡水尻砲台を接收するため苅北町を訪れた米兵①1945年10月18日
(長崎平和推進協会提供・くまもと戦跡ネット調査)



終戦直後の県内

武装解除克明に

終戦直後に進駐した米軍が、熊本県内の様子を撮影した数々の写真が米国立公文書館に眠っていた。新たに見つかった写真には、平和国家としての第一歩となる日本の武装解除の様子が克明に記録されていた。
【24面に詳報】

市民団体くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク(高谷和生代表)は16日、1945年の太平洋戦争終結を機に進駐した米軍が熊本県内で撮影した写真202枚が見つかったことを明らかにした。このうち天草で撮

影した写真を中心とした179枚は新発見とみられる。高谷代表は「米軍が日本軍の武器・弾薬をどのように接收し、どんな駐留をしていたかを知る貴重な資料」としている。【1面参照】

米軍が県内撮影 202枚発見

武器接收、駐留…終戦の混沌知る手がかり



民間転用され、健軍飛行場で撮影された機体。米軍の攻撃を避けるため緑十字が描かれている。右側の英文は写真説明=1945年10月14日



菊池恵楓園で男児と話す宮崎松記園長(中央)。右は米兵=1945年10月23日(写真の上下はいずれも長崎平和推進協会提供・くまもと戦跡ネット調査)

写真は45年10月〜46年3月に米海兵隊の記録班が撮影し、米国立公文書館が所蔵。公益財団法人・長崎平和推進協会の写真調査部会が「Nagasaki」と記された写真約4千枚を入手して調べたところ、熊本県関連の写真が混在していることが分かった。

同ネットワークは5月、熊本県関連の写真202枚の提供を受け、写真説明などを手がかりに撮影場所や当時の状況を調べた。同ネットワークによると、天草で武器・弾薬がどのように接收されたかを示す資料はこれまで見つ

かっていたなかった。写真に残る茶北町の富岡水尻砲台について、当時を知る住民は「終戦後に進駐軍がやって来て、ダイナマイトを仕掛けて砲台を爆破した」と証言したという。熊本市東区にあった健軍飛行場で撮影された写真では、飛行機や

関連機材、武器を集めて焼却。陸軍100式輸送機を民間転用した機体には、米軍から撃墜されないように緑十字が描かれていた。マニラから飛来した平和特使機」の説明があり、フィリピンから引き揚げる日本兵らを乗せていたとみられる。

合志市の国立ハンセン病療養所・菊池恵楓園に関連する写真では、家族舎の全景を写した写真や、米兵と共に男児と話す宮崎松記園長(当時)の写真などが見つかった。菊池市にあった菊池飛行場や、熊本市東区にあった三菱重工工業熊本航空機製作所も撮影対象となっている。同ネットワークは、展示会を開くなどして写真を公開する予定。米国立公文書館にはまだ多くの未発見写真があるとされており、高谷代表は「さらに調査や収集を進め、混沌とした熊本の終戦直後を知る手がかりにしたい」と話している。(熊川果穂)